

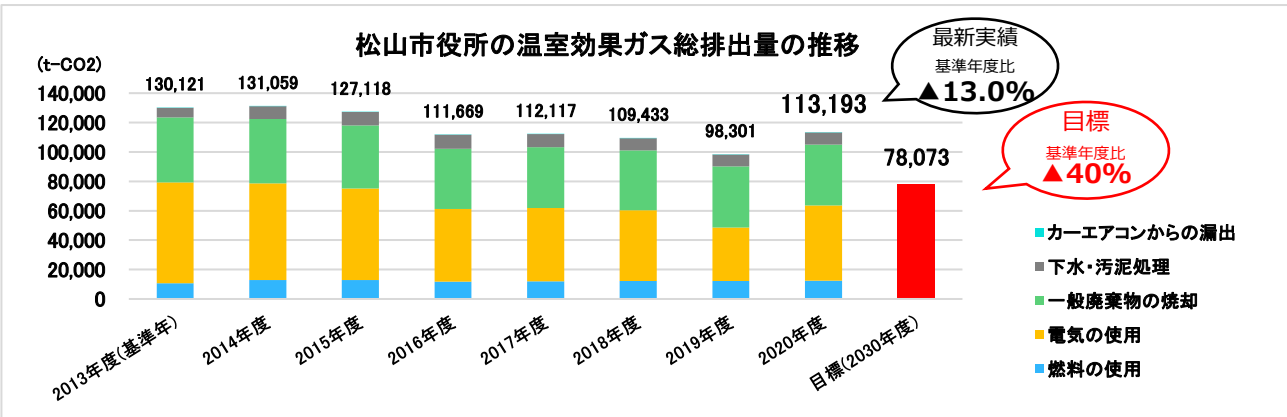
松山市役所の温室効果ガス排出状況 ～2020年度(令和2年度)実績～

松山市役所は、「第5期松山市役所温暖化対策実行計画」(2019年3月策定)で、市役所の事務や事業から排出される温室効果ガス排出量を2030年度までに7.8万t-CO₂(2013年度比40%減)とする目標を掲げています。

◆温室効果ガス総排出量◆

2020年度の松山市役所全体の温室効果ガス総排出量 **11.3万t-CO₂**

- 基準年度(2013年度)比で**13.0%(1.7万t-CO₂)減少**
- 前年度(2019年度)比で**15.1%(1.4万t-CO₂)増加**



単位 (t-CO ₂)	2013年度 (基準年度)	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2030年度 (目標年度)	基準年度比増減率
① 燃料使用による排出	10,736	12,804	12,959	11,815	11,965	12,193	12,324	12,407	10,762	15.6%
② 電気使用による排出	68,467	65,908	62,270	49,398	49,951	48,266	36,234	51,319	20,543	-25.0%
③ 一般廃棄物の焼却による排出	44,328	43,656	42,895	40,926	41,308	40,725	41,547	41,259	37,099	-6.9%
④ 下水・汚泥処理による排出	6,583	8,684	8,987	9,520	8,882	8,240	8,186	8,196	8,882	24.5%
⑤ カーエアコンからの漏出	7	8	8	10	10	10	10	12	10	71.4%
エアコン設置増加分									777	
合計	130,121	131,060	127,119	111,669	112,116	109,434	98,301	113,193	78,073	-13.0%

①燃料使用による排出

空調やボイラー、公用車などで燃料(都市ガス,A重油,灯油,LPガス,軽油,ガソリン)を使用する際に発生する温室効果ガスを算定します。空調の使用時間や公用車の使用の増加などで、基準年度と比較し12.0%の増加、前年度と比較し0.6%の増加となっています。

②電気使用による排出

施設等で使用した電気について発生した温室効果ガスを算定しています。松山市役所全体の電気の使用量は基準年度比で4.7%の減少、前年度比で1.6%の減少となっていますが、温室効果ガス排出量は電気のCO₂排出係数(電気1kWhあたりを発電する際に発生したCO₂の量)の増減が影響し、基準年度比は25%減少した一方、前年度比では41.6%の増加となっています。

③一般廃棄物焼却による排出

市が所管するクリーンセンターでごみを焼却する際に発生した温室効果ガスを算定しています。排出量の約95%はプラスチック成分の焼却によるCO₂の発生です。ごみの減量やリサイクルの推進などにより焼却量が減少し、基準年度比で6.9%の減少、前年度比で0.7%の減少となっています。

④下水・汚泥処理による排出

下水の処理や下水汚泥の焼却をする際に発生する温室効果ガス(メタン及び一酸化二窒素)を算定しています。下水処理量や下水汚泥の焼却量の増加により、基準年度比で24.5%の増加、前年度比で0.1%の増加となっています。

⑤カーエアコンからの漏出

公用車のカーエアコン使用時に漏出するハイドロフルオロカーボン(HFC)について算出しています。公用車の増加に伴い、基準年度から増加傾向となっています。